# ◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報(2023年10月)

(O~9mまでの平均値)

観測時期 2022年

**◎水温** 

24

20

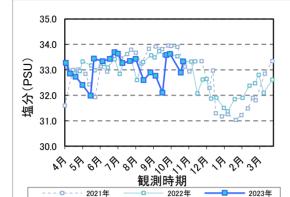
္ပ်

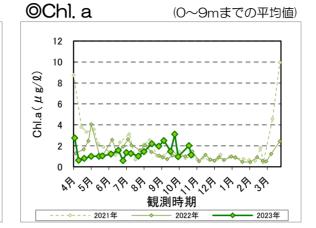
子 道

※参考文献

## 海洋環境データ

◎塩分 (O~9mまでの平均値) 35.0



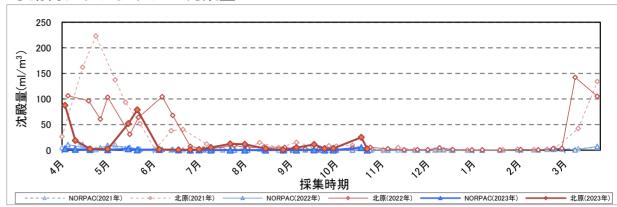


※観測:紋別市

### 動物プランクトンデータ

※分析:(株)エコニクス

#### ◎動物プランクトン・沈殿量



#### 10月2日 10月25日 10月21日 平均水温 19.9 14.3 14.5 (℃) 平均塩分 33.6 32.9 33.3 (PSU) 平均Chl.a 10 20 1.1 $(\mu g/\ell)$ (NORPACネット) 02 48 0.1(NORPACネット) (NORPACネット) 沈殿量 (ml/m<sup>3</sup>)3.3 25.1 2.2 (北原式定量ネット) (北原式定量ネット) (北原式定量ネット) (NORPACネット) (NORPACネット) (NORPACネット) 主な出現種 OPodon polyphemoides [+]◆ OAcartia omorii [+] OAcartia steueri [+] OSpionidae (larva) [+] OEurytemora herdmani [+]◆■ (カイアシ類:アカルチア・ステウェリ)[暖水性] (カイアシ类類: アカルチア・ステウェリ)「暖った性」 (枝角類: コウミオオメミジンコ)[暖スk性] (多毛類: スピオ科の幼生 (カイアシ類: ホソヒケ゚ミシ゚ンコ)「暖っk件] (カイアシ類:ユウリテモラ・ヘルト・マニ) 「冷水性/汽水性] © Centropages abdominalis [++] O*Mesocalanus tenuicornis* [+]**♦** O Oithona plumifera [+]◆ (カイアシ类頁: セントロハ゜シ゛ェス・アフ゛ト゛ミナリス) (枝角類:トゲナシエボシミジンコ)[暖水性] (カイアシ類: メリカラマス・テマイフルース)「寢ゥk性] (枝角類:トゲナシエボシミジンコ)「暖水性] (カイアシ鞜: アカルチア・ステウエリ)「揺った性」 (カイアシ類:オイソナ・プルミフェラ)[暖水性] @Paracalanus parvus s. l. [++]◆ O Centropages abdominalis [+] OMesocalanus tenuicornis [+] OSpionidae (larva) [+] (枝角類:ウスカワミジンコ)[暖水性] (名手類: 7k° #科の幼生) (カイアシ類: フヒゲミジンフ)[暖スk性] (カイアシ类頁 : ヤントロハ゜シ゛ ⊤ス・アフ゛ト゛ミナリス) (カイアシ鞜 : メソカラマス・テマイフルニス)「暖ァkヤギ] O Temora discaudata [+]◆ OOphiuroidea (ophiopluteus) [+] © Centropages abdominalis [++] OPodon polyphemoides [+]◆ (カイアシ鞜 : テモラ・テ゚ィスカウタ゚ータ)「暖フヒヤギ (カチドトデ・類のオフィオフ・ルテウスタカ生) (カイアシメ類・コトケ゜ミシ゛ソコ)「脛った性] (カイアシ鞜頁: ヤントロハ゜シ゛ ⊤ス・アフ゛ト゛ミナリス) (枝角類・フウミオオメミジソフ)[曜水性] OSpionidae (larva) [++] (名手類: スピオ科の幼生) (カイアシ類:シュウト゚テ゚ィアプトマス・マリマス)[汽ァk性] (カイアシ類: コトケ゜ミシ゛ソコ)「謡った性] (枝角類:トゲナシエボシミジンコ)[暖水性] (北原式定量ネット) (北原式定量ネット) (北原式定量ネット) OAcartia steueri [+]◆ OBivalvia (larva) [+] OCopepoda (nauplius) [++] OAcartia steueri [+]◆ ©Copepoda (nauplius) [++] (カイアシ類:アカルチア・ステウエリ)[暖水性] (二枚目類の幼生) (カイアシ類:アカルチア・ステウエリ)[暖水性] (カイアシ類のノープリウス幼生) (カイアシ類:アカルチア・ステウエリ)[暖水性] (カイアシ類のノープリウス幼生) @Sabellariidae (larva) [++] OBivalvia (larva) [+] @Sabellariidae (larva) [++] (カイアシ類:コヒゲミジンコ)[暖水性] (多毛類: カンムリゴカイ科の幼生) (カイアシ類:コヒゲミジンコ)[暖水性] (二枚貝類の幼生) (カイアシ類:コヒゲミジンコ)[暖水性] (多毛類: カンムリゴカイ科の幼生) Oithona similis [++] OSpionidae (larva) [+] ©Pseudodiaptomus marinus [++] OSabellariidae (larva) [+] Oithona similis [++] (カイアシ類: ウミケンミジンコ) (多毛類: スピオ科の幼生) (カイアシ類:シュウドディアプトマス・マリヌス)[汽水性] (多毛類: カンムリゴカイ科の幼生 (カイアシ類:ウミケンミジ ソコ) Oithona similis [+++] (カイアシ類:ウカレソコミジンコ)[暖水性] (枝角類: コウミオオメミジンコ)[暖水性] (カイアシ類 : ウミケンミジンコ) (カイアシ類: ウカレソコミジンコ)[暖水性] OCopepoda (nauplius) [++] OBalanomorpha (nauplius) [+] OMicrosetella norvegica [+]◆ (カイアシ類のノープリウス幼生) (フジツボ類のノープリウス幼生) (カイアシ類:オヨギソコミジンコ)[暖水性] 備考 (NORPACネット) (NORPACネット) 腐植質多い (NORPACネット) (北原式定量ネット)

● Acartia steueri ◆ (カイアシ類: アカルチア・ステウェリ) ●Copepoda (nauplius) (カイア>類のノーフ・リウス幼生) カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返してノーブ リウス幼生、コペポダイト幼生の段階を経て成体にな る。海産魚類の仔魚生残には、餌としてのカイアシ類の 体長:21.1-1.6mm、♂0.9-1.3mm。北西太平洋沿岸 に分布する。日本では北海道から琉球列島の内湾、沿 湾南の底層で属問群れることがある。 リウス幼生密度が決定的といわれている。 Centropages abdominalis (カイアシ類:セントロパジェス・アプドミナリス) ●Sabellariidae (larva) (多毛類: カンムリゴカイ科の幼生) 多毛類の発生途中の幼生。カンムリゴカイ科は砂粒を固めた棲管にすみ、ろ過食を行う多毛類である。 ● Paracalanus parvuss, 1. ◆
(3479類: 1½7 ※ 73)
体長: ♀0.8-1.0mm。 ♂0.7-1.0mm。 全世界の沿岸域
表層。日本では各地沿岸に分布するカラヌス目優占種の1 ●Spionidae (larva) (多毛類: スピオ科の幼生) 多毛類の発生途中の幼生。スピオ科は典型的な堆積物的者で、一般に内湾の泥中に生息する多毛類であるが、中には貝殻に穿孔して生活するものも含まれる。

は1.74年、747月、7月 体長: 90.7-1.0mm、み0.6-0.7mm。各地の内湾、沿 岸、外洋で普通に出現する。日本各地の沿岸にみられる 代表的な種類である。各大津に多く分布するが、比較的 治水を好み、外洋より沿岸に多い。

(枝角類:トグナシエボシミジンコ)

種で、本州中部では春に、東北以北では夏に多くなる。

● Oithona similis (カイアう類: ウミケンミジンコ)

出現量の多かった種

※毎洋環境データ欄の水温、塩分、Chlaのグラフは、水深O~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chla欄の数値は、表示の都合上、水深O~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。 ※種名の先頭に"◎"がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の"+"はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである([+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[++++]極めて多い)。 ※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、▼汽水性種)。 ※今月のサンプルには腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]/②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑(保育社]/③岩国市立ミクロ生物館 監修 (2011) 日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]

Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The Danielssenia sibirica group, with description of D. stefanssoni Willey from Alaska, Pac. Sci. 20 (4), 435-444.

(SPinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of Thysanoessa inermis and Euphausia pacifica (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. J. Exp. Mar. Biol. Ecol. 332, 206-215.

⑥林 (2006) 水產無背權動物学入門[恒星社厚生閣]/⑦Ohtsuka, S., Itoh, H. & Mizushima, T. (2005) A new species of the calanoid copepod genus Centropages (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? Plankton Biol. Ecol. 52 (2), 92-99.

⑧西・加藤(2002)日本産カンムリゴカイ科多毛類の分類について、タクサ、**13**、5-17、∕ ⑨今島(1996)環形動物 多毛類[生物研究社] ∕ ⑩日本プランクトン学会 監修(2011)ずかん プランクトン[技術評論社] ∕ ⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]

⑫古賀 (1960) Centropages abdominalis SATOのノープリアス幼生、日本水産学会誌、26 (9),877-881./⑬伊藤・水島・久保田 (2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長、東海大学紀要海洋学部、3 (1),19-35.

個大越・野村 (1990) 穿孔件多毛類 Polydra 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ見浸食状況、日本水産学会誌 56 (10)、1593-1598 / 商峯水・久保田・平野・リンズィー (2015) 日本クラゲ大図鑑「平凡社] / 何峰谷 (2017) 日本近海産貝類図鑑 【第二版】 「東海大学出版部「

⑪大塚・上田・岩渕・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野 (2007) 移入種か,在来種か?:清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する。日本プランクトン学会報。**54** (1),30-38